

# 施工説明書

## ●製品概要

名称	レディオック フラッド ブリッツ LEDioc FLOOD BLITZ(380Wタイプ)		
形式	E31212N/NSAN2	E31212M/NSAN2	E31212W/NSAN2
適合ケーブル	600V二種EPゴム絶縁クロロブレンキャブタイヤケーブル(2PNCT)と同等以上の性能を有する仕上外径φ10~12mmの3心ケーブル		
質量	24Kg		
IP性能	IP65		
定格入力電圧	200/240V		
電圧変動範囲	定格値±6%		
周波数	50/60Hz共用		
受圧面積	0.17m <sup>2</sup>		
使用温度範囲	-20~40℃(一時的な使用は50℃まで)		
使用場所	屋外の一般的な場所(クレーンへの取り付けはできません)		
振動条件	加速度	周波数(下記の周波数帯を避けた環境でご使用ください)	
	2.25G以下	前後 14Hz~25Hz	左右 20Hz~33Hz

## ●ご使用上の注意

- 本投光器は定置形器具です。それ以外の用途で使用すると、発煙・発火・感電・やけど・落下による事故の原因となることがあります。
- 角度調整用取っ手(図1)は器具設置後、照射角度を調整するために使用するものであり、運搬用ではありません。運搬用に使用した場合、落下によるケガのおそれがあります。
- LEDを直視しないでください。目の障害の原因となることがあります。
- LEDは白熱灯や蛍光灯などの一般光源と比較して色や明るさのバラツキが大きいのが実情です。そのため個々のLEDによる色味が異なる場合があります。また照射距離が近い場合は、照射面によって光ムラや色ムラが生じることがあります。
- 投光器の周囲温度が50℃を超える場所で使用した場合、または直射日光の当たる場所でLEDを点灯した場合、内蔵温度ヒューズが働き、LEDが消灯することもあります。電子部品の保護機能であり故障ではありませんが、このような環境下では使用しないでください。温度上昇により発煙・発火、電源の故障、またはLEDの寿命が短くなる原因となることがあります。
- 投光器の前面カバーに傷などをつけないでください。破損、防水不良、照度低下の原因となることがあります。  
なお、前面カバーに亀裂などを発見した場合は、早急に交換の必要がありますので弊社ご相談窓口までお問い合わせください。
- 冠水のおそれのある場所では使用しないでください。漏電、感電、故障の原因になります。

## ●各部の名称 図は一部省略抽象化してあります

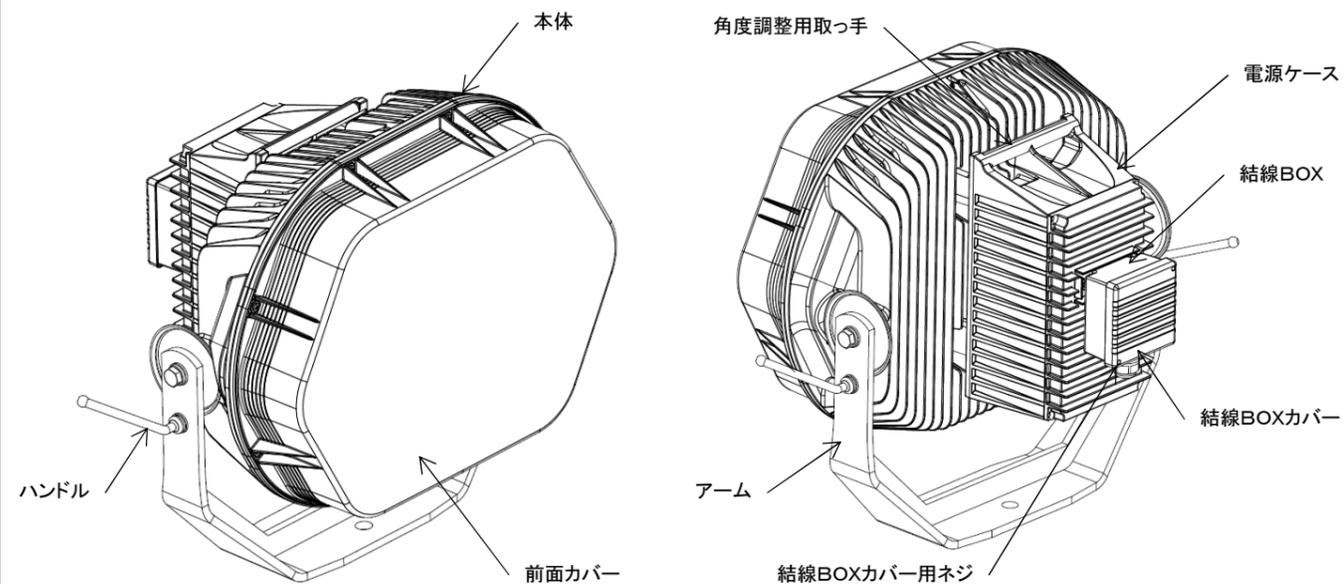


図1

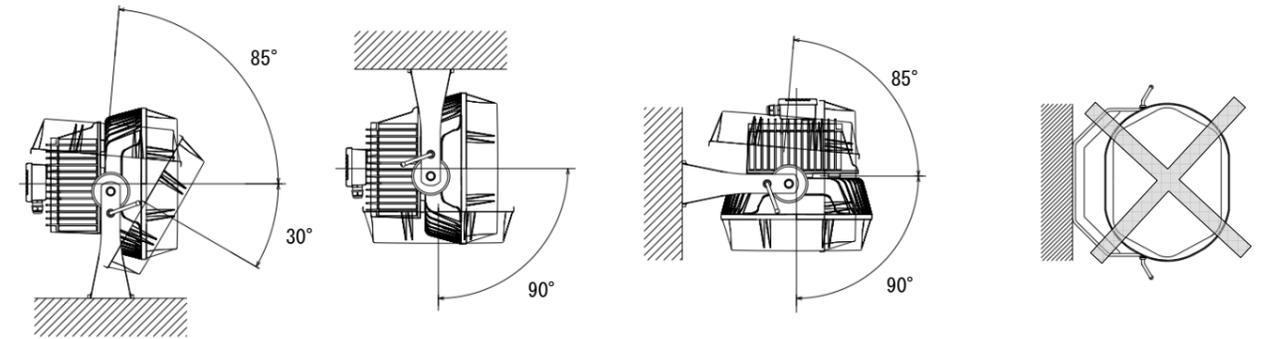


図2 投光器可動範囲

図3 取付け不可

## ●投光器の取付

投光器は構造物との干渉を考慮の上、設置してください。

- 投光器は必ずアームズリーチ外に取付けてください。
- 投光器は図2の照射範囲をご確認のうえ、取付けをおこなってください。  
図3のような壁面への横取付けはできません。  
投光器の落下による事故の原因となることがあります。
- 投光器は建造物の取付面に図4の取付穴間隔(55mm)でM16取付ボルトを2本設置し、台座の穴に挿入して2本の取付ボルト各々に平座金、バネ座金、M16六角ナットを入れ適正締付トルク94~108N・mで確実に締付けてください。  
取付けが不十分な場合、投光器の落下による事故の原因となることがあります。

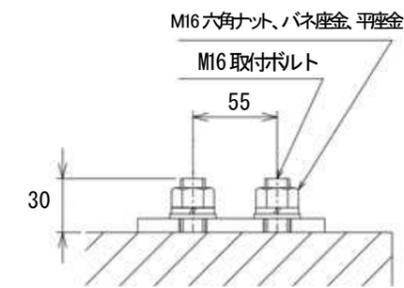


図4 取付ボルト設置例

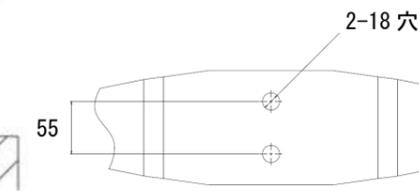


図5 アーム取付部形状

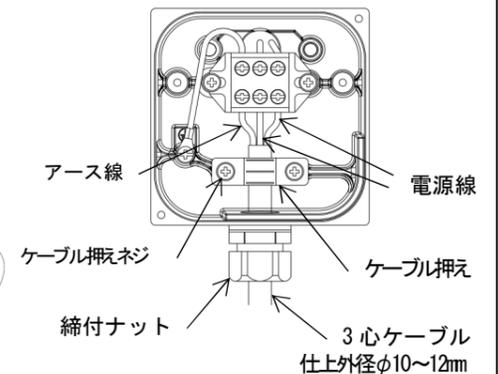


図6 端子台内部

- 結線BOXカバーのネジ2本を緩めて結線BOXカバーを取外してください。
- 600V二種EPゴム絶縁クロロブレンキャブタイヤケーブル(2PNCT)と同等以上の性能を有する仕上外径φ10~12mmの3心ケーブルを締付ナットに通し、図6のように端子台に結線して端子台ネジを適正締付トルク1.3~1.5N・mで緩みのないように確実に締付けてください。また、3心ケーブルはケーブル押えにて確実に固定し、ケーブル押えネジを適正締付トルク1.3~1.5N・mで緩みのないように確実に締付けてください。
- 結線BOXカバーのネジ2本を適正締付トルク1.3~1.5N・mで均等に締め付けて雨水がはまらないように確実に取付けてください。また、締付ナットも雨水が入らないように確実に締付けてください。
- 投光器のアースは、結線BOX内の端子台に接続してD種接地工事をおこなってください。  
(アース端子ネジ適正締付トルク:1.3~1.5N・m)

## ●照射角度の調整

- 照射角度の調整は、冷めた状態か点灯直後におこなってください。  
長時間点灯後は、投光器外郭が高温になるためヤケドをするおそれがあります。
- 照射角度の調整は角度調整用取っ手で投光器をしっかりと支えながらハンドル(2箇所)を緩め、ゆっくりと投光器の照射角度に合わせてください。しっかりと支えていない場合、投光器が急に回転し破損、ケガの原因となります。
- 照射角度調整後、ハンドル(2箇所)をしっかりと締付けてください。(適正締付トルク:22~25N・m)  
締付けが不十分な場合、投光器の落下による事故の原因となることがあります。